

光星いざ「思い切って」

リハーサル堂々
6日開幕する第105回全国高校野球選手権の開幕式リハーサルが5日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で行われた。4年ぶり49代表校の全選手がグラウンドを周る。従来の入場行進を行って、昨夏優勝の仙台育英(宮城)を先頭に北から南の順に行進。本県代表の八学光星は4番目に登場する。5日午前のリハーサルで、八学光星は12日予定の大会第7日第1試合でノースアジア大明桜(秋田)との初戦に臨む。(棟方好華)



開会式のリハーサルで、中澤恒貴(手前)を先頭に進行する八学光星。5日午前9時4分、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場。

全員がラッキーボーイに ロースコアの試合が理想

12日初戦かく戦う



「信汗不乱」胸に刻む

家族に感謝を伝えたいと聖地でプレーを心待ちにして。好きな言葉は「信汗不乱」。夏の限大会では出番がなかったが、コーチや同僚の確かな指針を送るなどチームに貢献。どんなときも支えてくれた。

選手への体冷やし 水分補給も暑さ対策で導入
理学療法士配置
全国高校野球選手権の大会は5日、選手が体を冷やしたり水分を補給したりする「クーリングタイム」が導入される。7月の日本の平均気温は統計を開始した1898年以降で最悪だった。今年も猛暑が予想され、炎天下での開催の是非も問われている。日本高野連は昨年大会後から「暑さ対策検討部会」で専門家を交えて対策を練ってきたという。関係者は「暑さ対策は大きな課題。選手に安全にプレーしてもらうために必要な措置」と話した。

八学光星は初戦で、2年ぶり10回目の出場となる秋田県代表のノースアジア大明桜と対戦する。秋田県大会では接戦をものにして勝ち上がり、チーム打率こそ割だが、4番吉川を軸とした打線は切れ目がなく、主戦の石原雅之のほか左右3投手も力がある。5日、阪神甲子園球場で、八学光星の仲井宗基監督、八学真左衛門明桜の奥石重弘監督、同右二に意気込みを聞いた。(棟方好華)



奥石 ロースコアの試合が理想。光星は非常にスケールの大きい野球をする。できるだけ失点を少なくしていきたい。一塁を握る選手。仲井 甲子園は日替わりのラッキーボーイが出る。チームが乗っていると、全員がラッキーボーイになってくれれば、投手陣もしっかりと力を発揮してほしい。奥石 東北大会では光星のホームラン一発で一気に流れが変わった。投手陣が鍵となる。地元の人たちになんか試合を見せたい。仲井 野球人口が年々減っている中、子どもたちに野球をやりたいと思ってもらえるようなプレーをしたい。

【1回戦】
土浦 先手取れるか
▽第1試合(10時30分) 土浦日大(茨城) 上田西(長野)
土浦日大は野ウエスパー藤本と速球派の小森に安定感がある。太刀川、香取を中心に攻撃で先手を取り、優位に運びたい。上田西は権田、滝沢、左の服部の投手陣を、県大会6試合で無失策の堅守で支える。2本塁打の遊撃手、横山が攻守の軸。

東北大会V 確かな成長に

夏だっただけのボール。敗れたものの「秋」の目標が、ままならず、初戦で敗退し実戦経験が少ないうえ、東北大会で経験を積み、県大会からベンチ入りした。春連戦で、向きを変え仲井監督、「イン」で失点し、またも県大会の入替も含め、もう一回戦争いをする。と立て直しを誓った。



夏の大会決勝で八学一を破り、メンバーを燃発させる八学光星。7月27日、弘前市のはるか夢球場。夏の大会決勝で八学一を破り、メンバーを燃発させる八学光星。7月27日、弘前市のはるか夢球場。夏の大会決勝で八学一を破り、メンバーを燃発させる八学光星。7月27日、弘前市のはるか夢球場。



12回目の夏 八学光星 甲子園出場

秋の県大会初戦敗退の悔しさを忘れることなく、チーム一丸となって夏の大会に臨む。秋の県大会初戦敗退の悔しさを忘れることなく、チーム一丸となって夏の大会に臨む。秋の県大会初戦敗退の悔しさを忘れることなく、チーム一丸となって夏の大会に臨む。

春の県決勝敗退が糧

しかし、八学一との決勝戦では得点機で打線が賑わらない。昨秋以来の課題。

夏の大会決勝で八学一を破り、メンバーを燃発させる八学光星。7月27日、弘前市のはるか夢球場。